

無憂樹

『受けとめる大地のありて』

椿落つ』

5月になり、もう昼間は夏日です。あつという間に春が終わり夏になりそうです。4月ですがすでに熱中症になって病院に搬送された方がいると聞きました。今年も熱中症に気を付けていきましょう。

4月の末にニースで北海道でも桜が開花したと流れていました。熊本でも3月4月は色々な場所で桜が綺麗に咲いていました。桜は咲いている時も綺麗ですが、桜吹雪というように、散っていく時も綺麗です。

令和7年5月号

浄尊寺

熊本市西区田崎

1-4-39

TEL・FAX

096-354-6530



桜が散れば、これから梅雨に入ります。梅雨といえば紫陽花が綺麗に咲いてくれる季節です。以前、ご門徒さんから教えてもらったのですが、紫陽花は花が枯れる様子を、散るとは表現されず、茎に花びらがついたまま枯れていくので、「しがみつくと表現されるそうです。

花によって枯れる表現が違うのは面白いなと思います。調べ

てみると、その他にも梅は「こぼれる」菊は「舞う」牡丹は「くずれる」雪柳は「ふぶく」朝顔は「しぼむ」など、花が枯れていく、終わっていく一つの表現をこれだけ表されている日本語の表現は本当に素敵だと思います。

その花の枯れ方、終わり方に教えてもらうのですが、私はどうなんだろうかということです。私も人間として生まれたならば、人間としてのいのちの終わりがありません。パツと散っていくのか、しがみついていくのか、またはくずれていくのか……しかし私たちはそれを死という一つの表現だけで終わらせておりませんでしょうか。

先日育てている椿が花を咲かせました。椿の枯れる表現は「おちる」です。浄土真宗の武内洞達先生が『受けとめる大地のありて椿落つ』という歌をのこされています。受けとめる大地があるからこそ、どんな終わり方でも良いし、精一杯花を咲かせることが出来るのです。

浄土真宗のみ教えは、どんないのちの終わり方をしようとも、阿弥陀さまが必ずお浄土で仏に生まれさせると南無阿弥陀仏のはたらきとなり届いてくださっています。南無阿弥陀仏、死ではなくお浄土に生まれていく、そう聞かせていただく中で、日々の生活を精一杯生きていくことです。